

教科名	科目名	単位数	対象学年
芸術	造形と陶芸	2単位	3学年文型 芸術選択

## 1. 科目の目標

基礎的な陶芸の知識と技術を学び、工芸を愛好する心情と生活を心豊かにするために工夫する態度を育てるとともに、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

## 2. 評価の観点

- ・工芸を愛好し、意欲的、主体的に表現や鑑賞に取り組み、その喜びを味わっている。
- ・感性を働かせて工芸のよさや意図を感じ、創造的な表現の工夫をしている。
- ・創造的な表現のために必要な知識や技術を身に付けようと努力している。
- ・工芸を幅広く理解し、その意図を深く味わっている。

## 3. 評価の方法

- ・学習活動への参加状況（制作へ取り組む姿勢、制作の準備・後かたづけ）
- ・制作した作品（試作品など制作の全過程）
- ・制作ノート（アイディアスケッチや制作計画、自己評価など）
- ・振り返り表の記入

## 4. 年間計画

学期	題 材	学 習 内 容	留 意 点
一 学 期	お江戸のソコ	・造形と陶芸の年間授業内容と目的について。	・学習の目標、目的を考える。
	陶芸の基礎的な知識	・デザイン、機能美、用途美について。 ・工芸の種類・工芸の素材 ・やきものの種類、歴史、陶芸の果たす役割について ・制作工程を理解。	（プリント資料、ワーク配布） ・身の回りや地域の工芸品を取り上げ、機能美、用途美について理解。 ・ノートを取りながら、工程や学習の流れを知る。
	陶芸の基礎的な技術①  鑑賞	◎粘土づくり  ◎「手びねり」による作品制作 「とって付きのカップ」と「マカイ」 ・デザインスケッチ ・紐づくり、タタラづくり、ろくろなどの成型技法 ・土作り～成型～加飾～乾燥～素焼き～絵付け・施釉～本焼きまでの制作工程 ・窯詰め～窯出し ・制作した器で試食し、用途と機能について鑑賞し、講評を行う。  ・沖縄の陶芸の歴史と作家の多様な表現方法を知り、自己のデザインに活かす。	・陶土精製の一部を体験する。 ・土練機の安全な使用。  ・器の形を考えることで、目的意識を高める。  ・実技演習をとおして、準備から片付けまでの一連の作業の流れと道具の効果的な使い方を理解する。  ・道具の後片付け、作品、材料の保管を徹底する。 ・窯出しと出来上がった器での試飲を通して完成の喜びを味わう。

二 学 期	陶芸の基礎的な技術②	<p>◎「水びき（電動ろくろを使用した成形方法）」</p> <p>「器全般」茶碗、コップ、皿、花器など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 様々な装飾</li> <li>線彫り・象嵌・掻き落とし・張り付け」等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 道具や機械の正しく安全な使い方を理解する。</li> <li>• 高台や腰の削り方を学ぶ。（カンナの使い方）</li> <li>• シーサーの意味と由来を知り、作品作りに活かす。</li> <li>• アイディアスケッチを行い、使用目的を明確にしてから制作に取り組む。</li> </ul>
	鑑賞	◎「シーサー」づくり 赤土を使用し、焼き締める。	
三 学 期	自主制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>• オリジナル作品（器、オブジェなど）のアイディアスケッチをする。</li> <li>• デザインに適した技法を決めて、成型、加飾、絵付け、施釉を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 経験した技法や試作後の反省を基に作りたい作品を考える。</li> <li>• 機能性のみならず、ユニークな形や色などデザインコンセプトについても考える。</li> <li>• 個々に適したアドバイスをして制作計画をたてさせる。</li> <li>• 自他の作品鑑賞を通して、表現の多様性を知り、個性を尊重する。</li> <li>• これまで培った技術を活かして、「贈る」というテーマで制作に取り組みせる。</li> </ul>
	（卒業制作）	◎卒業制作の計画をたてる。 • 作成	
	（気持ちを伝えるカタチ）	◎贈る相手を決めてデザインする。 • 作成	
	鑑賞		
三 学 期		• 贈るための包装のデザインをする。	
	一年間を振り返って	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 制作に使用した道具の整備</li> <li>• 材料の後片付けと、工芸室の大清掃</li> <li>• 一年間の陶芸との関わりを振り返り、感想をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業を通して、機能美、用途美、デザインについて学んだことを今後の生活に活かせるよう考え、振り返る。</li> </ul>